

参考資料

- ・リーフレット
- ・活用マニュアル
- ・お願い連絡シート（予備）



お子さんの成長を 記録していきませんか

～気仙版サポートファイル「つむぎ」のご紹介～

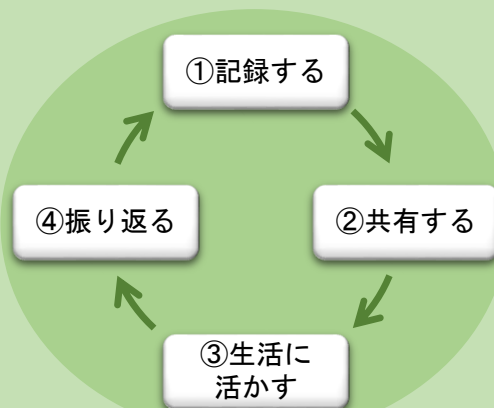
<サポートファイルとは>

大切なお子さんの育ち方や暮らしの様子、子育て中のご家族の思いなどを一冊のファイルに記録し、幼稚園・保育所・こども園・学校の先生や医師、相談員など（以下、「支援者」と呼びます）に子どものことをよりよく知ってもらうために使います。

お子さんの成長や引越しに伴って、お子さん本人の暮らし方は大きく変わり、支援者も代わります。新しい支援者にお子さんのことをよく理解してもらうことで、お子さんに合う支えや気配りが切れ目なく継続して受けやすくなります。



<基本的な使い方>



- ① ご家族がお子さんの成長や暮らしの様子について記録します
- ② ご家族と支援者がファイルの情報を共有します
- ③ ご家族や支援者が日々の生活に情報を活かします
- ④ ご家族と支援者との間でお子さんの様子を振り返ります

<Q&A>

どのような人が使いますか？

特別な病気や障がいの有無にかかわらず、「子どもの成長の記録を残しておきたい」あるいは「子どもの情報を先生に正しく伝えたい」という思いのあるご家族であればどなたでも使用できます。母子健康手帳の内容をさらに延長して使うものとお考えください。

誰が記入し、保管しますか？

基本的にはご家族が記入し、保管します。記入の仕方については、支援者がサポートをいたします。

どんな場面で役立ちますか？

担任の先生や関わっている支援者が代わる際に「つむぎ」の情報を見せたり、コピーをして渡したりすることで、これまでのお子さんの成長の様子を伝えることができ、同じ説明を始めから何度も繰り返さずにすむようになります。

記憶ではあいまいになってしまうことも「つむぎ」を活用することにより、正しく支援者に伝えることができます。

<お問い合わせ>

「つむぎ」のご利用方法等については、事務局か気仙各市町の母子保健・児童福祉担当係、または教育委員会、および相談支援事業所までご連絡ください。なお、様式については気仙各市町のホームページからダウンロードできます（予定）。

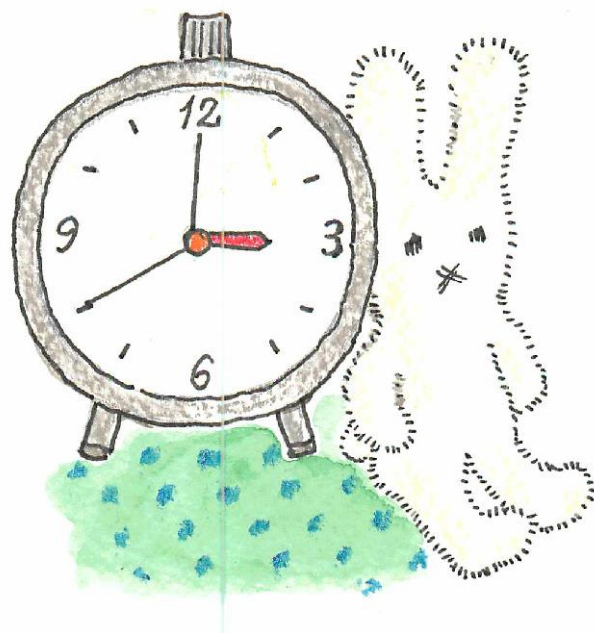
【事務局】児童家庭支援センター大洋

住所：大船渡市立根町字下欠 125-15

電話：0192（21）3130 メール：jikasen@taiyokai.or.jp



気仙地域サポートファイル 「つむぎ」の活用の仕方



気仙地域自立支援協議会 児童部会

1. サポートファイル「つむぎ」とは

大切なお子さんの育ち方や暮らしの様子、子育て中のご家族の思いなどを記録し、幼稚園・保育所・こども園・学校の先生や医師、相談員など（以下、「支援者」と呼びます）に子どものことをよりよく知ってもらうために使います。

お子さんの成長や引越しに伴って、お子さん本人の暮らし方は大きく変わり、支援者も代わります。新しい支援者がお子さんのことをよく理解することで、お子さんに合う支えや気配りが切れ目なく継続して受けやすくなります。

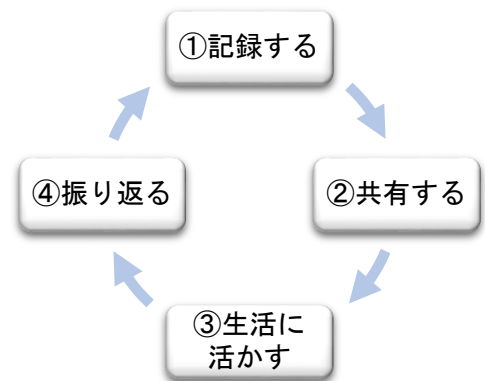
～「つむぎ」の言葉に込めた願い～

転居やライフステージの変化で支援者が変わっても、お子さんとご家族のサポートが切れ目なく継続されていくように、という願いを込めています。繊細な一本の糸をつむぐようにサポートファイルが優しく温かくバトンされていくイメージを重ねました。

またこのファイルを通じて支援者同士がつながりを持って連携し、お子さんの可能性にあふれた未来をつむぐ手助けとなっていけるように、私たちが努力してより良いネットワークを作っていきたいという思いも込めています。

2. 基本的な使い方

- ①ご家族がお子さんの成長や暮らしの様子について記録します
- ②ご家族と支援者がファイルの情報を共有します。
- ③ご家族や支援者が日々の生活に情報を活かします
- ④ご家族と支援者との間で子どもの様子を振り返ります



3. 主な構成

①基本シート	②オプションシート
▶ファイルを使い始めたときや、暮らしの節目ごとに使います	▶子どもの様子やご家族の必要に応じて使います
▶各セットについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 「子育て標準セット」・・・ 記入の負担等をできるだけ最小限にしたいとき ・ 「学びのサポートセット」・・・ 学習の取り組みについて課題があるとき ・ 「体と心のサポートセット」・・・ 病気等があるために医療面での配慮を必要とするとき ・ 「育ちのサポートセット」・・・ 発達に課題があり支援や配慮を必要としているとき ・ 「仕事のサポートセット」・・・ 就労移行や成人期以降の自立に向けた取り組みをするとき 	

4. Q & A（保護者・ご家族向け）

①どのような人が使いますか？

特別な病気や障がいの有無にかかわらず、「子どもの成長の記録を残しておきたい」あるいは「子どもの情報を先生に正しく伝えたい」という思いのあるご家族であればどなたでも使用できます。母子健康手帳の内容をさらに延長して使うものとお考えください。

②誰が記入し、保管しますか？

基本的にはご家族が記入し、保管します。記入の仕方については支援者がサポートをいたします。

③すべてのシートに記入しなければならないのでしょうか？

すべてのシートや項目へ記入する必要はありません。ご家族が今後のために記録・整理しておきたい情報や、支援者へ伝えたい情報などを中心にシートや項目を選んで記入してください。

また、必要に応じて項目を付け足したり、他の資料や用紙を添付して作業を簡略化したりしてもかまいません。お子さんやご家族の事情に合った無理のない使い方を見つけていきましょう。

④いつから書き始めたらいですか？

記入を始める時期は決まっていません。ご家族が「子どもの成長の記録を残しておきたい」「子どもの情報を先生に正しく伝えたい」「環境が変わっても子どもに必要な支援が続いて欲しい」と感じられたときに使い始めていただくことが望ましいです。

必ずしも過去にさかのぼって記入する必要はありませんが、小さいころのエピソードが日々の生活に役立つ新たな工夫の発見につながる場合がありますので、無理のない範囲で記入してください。

⑥どんな場面で役立ちますか？

担任の先生や関わりのある支援者が代わる際に「つむぎ」の情報を見せたり、コピーを渡したりすることで、これまでのお子さんの成長の様子を伝えることができ、同じ説明を初めから何度も繰り返さずにすむようになります。また、記憶ではあいまいになってしまうことも「つむぎ」を活用することにより、正しく支援者に伝えることができます。

5. Q & A（支援者向け）

①受け取った情報はどのように活用すればいいですか？

ご家族から提供される情報の中には、子どもを養育する上での貴重な知恵や工夫、願いがこめられています。ご家族に敬意を示しながらその情報をぜひ丁寧に受け取ってください。そして、子どもが安心して暮らすことができるように、日常の支援・指導を行う中で活用してください。

また、支援・指導の成果をご家族と定期的に振り返ったり、あるいは個別の指導計画等を作成する際の資料として活用すれば、子どもとご家族のニーズを十分に汲んだ当事者主体の支援を行うことにもつながり、ご家族と支援者との信頼関係を築いていく上でも大いに役立ちます。

②どのような場面でご家族と情報のやりとりをすればいいですか？

ご家族と支援者が初めて顔合わせをするときや、各種計画を立てる前のアセスメントを行う際、

家庭訪問・面談・相談などを通じて子どもの状況を一緒に振り返るときなどに活用していくことが期待されます。

基本シートへの記録については子どもの生活の節目ごとに概ね年に1～3回ほどのペースで行われることを想定していますが、子ども・ご家族・所属機関に応じて適切な頻度やタイミングは異なります。また、ご家族の立場からは必要なタイミングが計りにくいことが多いので、必要に応じて面談の場を設定したり、記入の時期が来たことをお知らせするなど、支援者側がリードしていくことが望ましいです。

③これまで作成した資料はどうすれば良いですか？

子どもが所属・利用している機関で作成した支援にかかわる資料は重要な情報です。各発達段階において作成された個別の教育支援計画等の資料はご家族のニーズを踏まえて作成されていると思いますので、ファイリングをして望ましい支援が継続するように確実に引き継ぎましょう。

「つむぎ」を活用する期間は学齢期に限らず、子どもの生後から成人期以降までライフステージ全体を切れ目なくサポートする目的で作られています。

個別の教育支援計画や個別の指導計画についてご不明な点があれば、各教育委員会にお問い合わせください。

④支援者にとってはどのような利点がありますか？

「つむぎ」には子どもに関する情報が縦断的にまとめられているため、新たに関わり始めた支援者が、早期のうちに子どもの成長過程を理解し、子どもに合った関わり方や課題を予め把握することができます。それによって予期せぬ事態や不適応についても未然に回避しやすくなります。

長期的・総合的に見た場合には、「つむぎ」を活用しながら、予防的支援に力点を置くほうが時間的・人的負担を軽減することになり、効率の良い支援を行うことにつながる可能性があります。

⑤支援者側が必要としている専門的な情報などが不足していませんか？

「つむぎ」は主に、子どもの成長過程とご家族の願いが記録されています。そのため、支援者が必要としているより専門性の高い情報を網羅しているとは限りません。

「つむぎ」の情報を基に、ひとりひとりの子どもに関わっている内外の複数の支援者がチームとしてより良くまとまって連携がとられるようになり、それによって支援・指導がさらに充実していくことを期待しています。その点では、直接子どもに関わる担任・担当者だけでなく、管理職やコーディネーター役の方々の理解と協力が求められます。

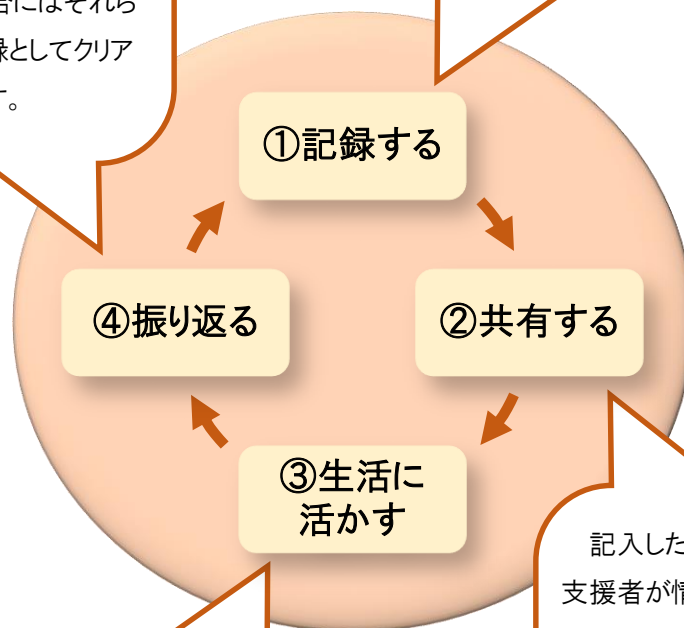
6. 「つむぎ」の活用イメージ

学期末や年度末など、節目の時期にご家族と支援者が一緒にお子さんの生活や成長の様子について確認をします。「お願い連絡シート」の内容にも焦点を当てて振り返り、成果を話し合います。

得られた情報はシートに記録して次の共有の機会に備えます。個別支援計画等がある場合にはそれらを所属機関からの記録としてクリアポケットに挿し込みます。

ご家族が「基本シート」にご家庭でのお子さんの様子を記入します。ご家族から支援者へ特に伝えたい内容を「お願い連絡シート」に書きます。また「オプションシート」はご家族の希望や心配事に合わせて選びます。

担任や相談員等の身近な支援者は必要に応じてガイド役となり、記入の仕方や当面の間の使い方についてご家族と考えます。



ご家族は日々の子育てに、支援者は保育所・学校等の所属機関での支え方や見守り方の中に共有した情報を取り入れていきます。

必要に応じて、ご家族や担任、その他の支援者との間で役割分担をします。また、個別支援計画等を立てる際の情報源として活用することができます。支援者は受け取った情報の用途についてご家族とよく話し合い、了解を得ましょう。

記入したシートを使ってご家族と支援者が情報を共有します。コピーしたシートの受け渡しのみでも構いませんが家庭訪問や面談の際に顔を合わせて話し合うほうがより丁寧に確認することができます。

支援者は「お願い連絡シート」に書かれているご家族の要望について検討し、後日に支援方針を報告します。以後の面談の時期や回数についても決めておきます。

7. 「つむぎ」の活用モデル

モデル①（幼稚園への入園をサポートしている事例）＜年度に1回のペースで面談を実施＞

時系列	ご家族の役割	支援者の役割
3歳（在宅） 2月	記入を開始（ <u>プロフィール、乳幼児期シート</u> ）。療育教室から受け取った支援計画と以前に受けた発達検査の結果をクリアポケットに挿入	<u>療育教室スタッフ</u> 発達相談を行う中で「つむぎ」について保護者へ情報提供。保護者の記入をサポートしつつ、入園予定の幼稚園とも連携を図る
幼稚園（年中） 4月	<u>お願い連絡シート</u> へ幼稚園への要望を記入 三者面談に参加して <u>プロフィール、乳幼児期シートのコピーとお願い連絡シート</u> を幼稚園担任へ渡す	<u>療育教室スタッフ</u> 幼稚園に情報共有のための面談の場を設けることについて依頼、打診 <u>幼稚園 担任・主任、療育教室スタッフ</u> 保護者を含めた三者面談を実施。 <u>受け取った各シート</u> を使いながら家庭・教室での様子を幼稚園へ伝える。
5月	家庭訪問の際に <u>回答済みのおお願い連絡シート</u> を受け取る。	<u>幼稚園 担任</u> 家庭訪問の際に園での対応方針を記入した <u>お願い連絡シート</u> を保護者へ返却。入園1か月を経過しての適応状況を保護者へ報告。
3月	家庭での子どもの様子を <u>乳幼児期シート</u> へ、次年度の幼稚園への要望を <u>お願い連絡シート</u> へ改めて記録する	<u>幼稚園、療育教室</u> 幼稚園・療育教室それぞれで子どもの暮らしの様子や成長について1年間の評価を行い、情報をまとめておく。
幼稚園（年長） 4月	面談に参加。 <u>乳幼児期シートのコピーとお願い連絡シート</u> を幼稚園の担任へ渡す。 療育教室から受け取った支援計画をクリアポケットに挿入する	<u>幼稚園、療育教室</u> 幼稚園の担任は異動なし。三者で面談を行い、保護者から <u>各シート</u> を受け取る。昨年度1年の子どもの様子を振り返り、今年度の支援の方向性を確認。 <u>療育教室</u> 保護者や幼稚園と共有した情報を活かして支援計画を作成する

モデル②（健康面で心配があったため学期ごとに面談を行っている事例）＜学期毎に面談を実施＞

時系列	ご家族の役割	支援者の役割
保育園（年長） 1月	記入を開始（ <u>プロフィール、乳幼児期シート、医療シート</u> へ記入）	教育委員会 指導主事 就学相談の中で「つむぎ」について保護者へ情報提供 保育園担任 保護者の記入をサポート。園での子どもの暮らし方や課題を保護者と共有
3月	家庭内で就学に際しての心配事（特に健康面）について話し合い、 <u>お願い連絡シート</u> に小学校への要望を記入する	教育委員会 指導主事 就学先小学校へ、「つむぎ」活用についての協力依頼。顔合わせを兼ねた面談の場を設けることについて提案・打診
入学、小学1年 4月	面談に参加。記入済みの <u>プロフィール、乳幼児期シート、医療シート</u> のコピーを渡して情報提供。 <u>お願い連絡シート</u> を使って要望や心配事を伝える。 家庭訪問の際に <u>回答済みのおお願い連絡シート</u> を受け取り、クリアポケットに挿入	小学校（担任・コーディネーター） 保護者との顔合わせの面談を実施。教育委員会指導主事が同席。 <u>お願い連絡シート</u> の要望に対しては校内での対応方針を検討し、家庭訪問の際に保護者へ返すこととした。 個別の指導計画・教育支援計画へ反映、完成後に保護者にコピーを渡す。養護教諭など校内でも共有。チームで対応。
7月	完成した個別の指導計画・教育支援計画を受け取り、クリアポケットに挿入 面談に参加。家庭や学童での子どもの様子を伝える。	小学校（コーディネーター） 2回目の面談について打診、日時調整 小学校（担任・コーディネーター） 1学期の学校生活を振り返り、心配された健康面に関する状況について共有。2学期の課題と目標を確認。
12月	学期末に担任と情報を共有。病院受診をした際の医師の助言内容等を報告。	小学校（担任・コーディネーター） 2学期末に同様の面談を実施。新たな課題と、対応方針を確認。
3月	家庭での状況を改めて <u>小学校シート</u> へ、新たな要望を <u>お願い連絡シート</u> へ記入する	小学校（担任） 新学期を前に1年の評価を行い、情報をまとめる。引き継ぎに備える
小学2年生 4月	面談に参加。 <u>小学校シート・お願い連絡シート</u> を提出して、新担任へ改めて子どもに関する情報を伝える。 健康面の課題も無事に改善しているため、今年度からは面談の回数を減らしていくこととした。	小学校（新担任・コーディネーター） コーディネーターから新担任へこれまでの取り組みと子どもの様子を説明 面談で新担任と保護者との顔合わせ。新たな要望を受けとる。 個別の指導計画作成のための聞き取りを行い、支援の方向を保護者と確認。

8. シートの記入例

①乳幼児期（基本シート）記入例 母が記入・保育園年長時の2月

2. 乳幼児期（6歳）

（1）家庭での様子

平成27年 2月 1日 記入

	現在の様子	サポート
食 事	茶碗を持たずに食べたり、姿勢が崩れたりしやすい。箸は上手に扱える。肉・生野菜など硬い食べ物物が苦手。	何度も注意されると機嫌を損ねるので、繰り返して言わない。硬い食材はできるだけ小さめに切り、火を通す。
衣服着脱	他の事に気をとられて時間がかかったり、服の前後を間違えたりすることがある。衣替えのときに嫌がる。	着替えの時にはテレビを消しています。前後の間違えはそっと気づかせて自分で直させる。
排 泄	だいたい自立しているが、ふき取りが不十分なことがある。また、遊びに気をとられて失敗してしまうことがある。	排泄の後に繰り返して拭くように声をかける。遊びに夢中になっているときには適宜トイレを促す。
睡 眠	少し目覚めが悪いが、普段は特に問題はなし。旅行先など慣れない場所では寝付きにくい。	朝は少し早めに声をかけて起こす。寝つきにくいときには布団の上で絵本を読んで聞かせる。
ことば (言語理解・発語)	大まかな指示だけでは伝わらないことがある。意味をよく理解せずに相手の嫌がる言葉を使うことが最近増えている。	ひとつずつ細かく指示をする。
コミュニケーション (大人と・子どもと)	初めて会う人には慣れにくい。おとなしい性格の人とは仲良くなりやすい。	
遊びの様子 体の動き	虫集めや図鑑を見るのが好き。追いかけては好きだが、ルールのある遊びは自分中心になりやすい。	姉や大人と一緒に入りながらルールを教えてあげながら遊ぶ。
手の操作	物作りは好きだが指先は不器用。力は弱く、鉄棒あそびなどは苦手。力の加減が大雑把。	
好きなこと	虫や車に関する興味が強く、知識が豊富である。	そわそわしているときなどにも図鑑があると落ち着きやすい。
苦手なこと	絵を描くのが苦手です。何を描くか迷って描き始めるまでに時間がかかります。突然の予定の変更に合わせにくいです。	
癖・こだわり	園への行き帰りの際に決まった道を通りたがる。知らない場所に行ったらはじめにトイレの場所を確認したがる。	道順のこだわりにはあまり応じないようにしている。慣れない場所でははじめにトイレの場所を確認する。
感 覚	打ち上げ花火や太鼓、ピストルなどの大きな音が急に鳴ると怖がる。天気（気圧？）の変化に敏感。	怖がっているときには無理をさせない。
かんしゃく パニック	夢中になっているものを急に取り上げられるとかんしゃくを起こしやすい。大泣きをして相手の人にあたることがある。	前もって言えばしぶしぶ寝すことができる。かんしゃくを起こした場合には落ち着くまで静かな部屋で過ごす。

②乳幼児期（自由記述欄）の使い方

「自由記述欄やクリアポケットは、例えばこんな使い方ができます」

- ・本人が描いた家族の絵をクリアポケットに入れて保管する（入れ物として）
- ・運動会で1位になったときの写真を記念に貼り、コメントを書く（アルバムとして）
- ・かかりつけの医師から聞いたアドバイスの内容を書いておく（メモとして）

③乳幼児期「支援者からの情報提供資料」

保育園担任が記入・年長時の2月

この様式にこだわらず、各機関の様式を優先的に利用する

2. 乳幼児期（6歳）

(3) 幼稚園・保育園・こども園・療育教室での様子

平成27年 2月10日 記入

記録者	幼・保・こども園： リアス保育園 担任 鈴木（年長クラス）
	療育教室： 市 担当

	現在の様子	サポート
食 事	苦手な食べ物もがんばって食べようとしています。箸の持ち方が上手になりました。	苦手な食べ物にチャレンジをして口に入れたときに褒めるようにしています。
衣服着脱	ひとり着脱できます。お昼寝の後はぼーっとして着替えに時間がかかることがあります。	お昼寝の終わりの前に、少し早めに声をかけるようにして、できるだけ自分の力で着替えをするようにしています。
排 泄	園での失敗はありません。用を足したいときには自分からトイレに行くことができます。	生活の流れがいつもと違うときには、全体に向けてトイレのタイミングを促します。
睡 眠	お昼寝の後、少し目覚めが悪いですが、他は問題ありません。	現在は就学に向け、年長児童はお昼寝をせずに午後の時間を過ごしています。
ことば (言語理解・発語)	全体向けの指示で動けないときがあります。思いを伝えられず、友達とのトラブルに発展することがあります。	必要に応じて個別に声をかけています。トラブルが生じたときには、ゆっくと本人の考えや思いを聞くようにしています。
コミュニケーション (大人と・子どもと)	大きな声を出す人が少し苦手ですが、基本的には人懐こいです。子ども同士より大人との関わりを求めようとしています。	友達と関わりながら楽しく遊べるよう、ときおり大人が間に入って一緒に遊んでいます。
遊びの様子 体の動き	ルールのある集団遊びが苦手ですが、輪の中に入って遊びたいという気持ちがあります。体の動きは少しぎこちないです。	本人なりに楽しめているところを褒めたり、応援したりしています。お遊戯のお手本は本人によく見えるようにしています。
手の操作	制作活動にはとても意欲的で、よい作品を作ることができます。手本を見ながら折り紙を折ることができるようになりました。	本人の制作物を他の子どもにも紹介するなどして、自信につなげています。
好きなこと	生き物についての知識がたくさんあります。図鑑などを熱心に見ています。夢中になりすぎるがあります。	必要に応じて、図鑑を見てよい時間などの約束の確認をします。
苦手なこと	ペンを持つ作業に苦手意識が強く、お絵かきやワークを使ったお勉強にはあまり積極的ではありません。	作業のはじめに大人が少し手伝ってあげると本人も自分でやろうとします。
癖・こだわり	お遊戯の衣装を着るのを嫌がるがありました。	早めに衣装を用意して、できるだけ前もって慣れられるようにしました。
感 覚	突然の大きな音が苦手です。肌の感覚も敏感なようですが、痛みに対しては鈍いように見えることもあります。	苦手な音がするときは無理をさせないように過ごさせています。
かんしゃく パニック	年中までは友達とのやり取りがうまくいかずかんしゃくを起こすことがありましたが、年長になってからはありません。	日ごろから、無理のない範囲で自分の気持ちを言葉にして表すよう促しています。



お願い連絡シート

お子さんのお名前： けせん タロウ

年齢： 6 歳

	ご家族から支援者へ お願いをしたいこと	支援者側の対応や 受け入れの方針	成果と課題
1	絵や文字を書くことがとても苦 手なので、学校の勉強が嫌いにな らないか心配です。	書き方の練習は無理のないように丁寧 に進めます。また、書く負担が大きくな く、タロウさんにとって楽しめるような教材 や学び方を取り入れます。	
2	別の保育園から入ってくる新し い友達と仲良くできるか心配で す。	タロウさんの思いや考えをくみ取りなが ら、必要に応じて担任がタロウさんの考 えを橋渡しするお手伝いをします。 また、クラス内ではひとりひとりの長所や がんばりをお互いに認め合えるような仲 間づくりを目指していきます。	
3	〇〇の持病があります。 ふだんは特別な対応はいりませ んが、疲れがたまったりするときなどに 症状が出る場合があります。	保育園の先生からも症状が表れるとき の予兆や対応の仕方などについて引 継ぎを受けていました。 運動会前に養護教諭も同席をしての 個別面談を行いましょう。	
4	意外なところでこだわりを示す ことがありますので、そのことを 知っておいて頂きたいです。 もじもじしたりぐずったりして いるときには、本人としてはそこ に何かこだわりたいものがある 場合が多いです。	何かこだわっているものがないか、日ごろ から気をつけて観察をしてみたいと思いま す。 日常の細かな出来事・様子について は連絡帳で情報を共有させてくださ い。ご家族がこれまでなさってきた工夫 やアイデアなどもぜひ教えてください。	
5			
記入者	母	担任 山田	
記入日 報告日	平成27年3月10日	平成27年4月15日	年 月 日

<その他の連絡事項等>
1年1組担任の山田より
貴重な情報をご用意・ご提供いただき、ありがとうございました。
タロウさんが安心して楽しく小学校生活を送ることができるよう活用させていただきます。
また、タロウさんのことで気になることがありましたら、ご遠慮なくご連絡ください。(山田連絡先 123-4567-8910)

<お子さんが所属・利用している機関の先生方へ>

このシートはご家族のニーズを支援者へと伝えるためのツールです。ご家族からのお願い内容についての対応方針を表中央の欄へご記入いただき、ご家族へご返却ください。個別面談や家庭訪問・教育相談などの場での活用が期待されます。

また、サポートファイル「つむぎ」や当シートに記載されている情報が支援者側でも必要となる場合には、ご家族の了解を得た上で複製し、厳重に保管いただきますようお願いいたします。

9. お問い合わせ

サポートファイル「つむぎ」について、ご意見・ご要望・ご質問などがありましたら、事務局が気仙各市町の母子保健・児童福祉担当係または教育委員会までご連絡ください。

【事務局・お問い合わせ先】

気仙地域自立支援協議会 児童部会

住所：岩手県大船渡市立根町字下欠 125-15

児童家庭支援センター大洋南

電話：0192 (21) 3130

Mail：jikasen@taiyokai.or.jp



お願い連絡シート

お子さんのお名前： _____

年齢： _____ 歳

	ご家族から支援者へ お願いをしたいこと	支援者側の対応や 受け入れの方針	成果と課題
1			
2			
3			
4			
5			
記入者			
記入日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
報告日			
＜その他の連絡事項等＞			

＜お子さんが所属・利用している機関の先生方へ＞

このシートはご家族のニーズを支援者へと伝えるためのツールです。ご家族からのお願い内容についての対応方針を表中央の欄へご記入いただき、ご家族へご返却ください。個別面談や家庭訪問・教育相談などの場での活用が期待されます。

また、サポートファイル「つむぎ」や当シートに記載されている情報が支援者側でも必要となる場合には、ご家族の了解を得た上で複製し、厳重に保管いただきますようお願いいたします。